

永田町新潮流 平沢勝栄

俺がやらねば



米国のドナルド・トランプ次期大統領は、過激な発言で知られる。女性蔑視発言はもちろんのこと、選挙中は民主党候補のヒラリー・クリントン元国務長官に対して、「あなたを刑務所に入れることになる」とまで言い放った。

先日、米コロンビア大のシエラルド・カーティス教授に「なぜトランプ氏は、こうした発言をしても当選できたのかを聞いてみた。答えは「米国人にとってはヒラリー氏の亭主も同じだ。大事なことは明日の生活である」だった。かつて英国のウィンストン・チャーチル元首相は、酔って議会に出席し、女性議員が厳しく追及された。そのと

きチャーチルは「私の酔いは、一晚寝れば治る。しかし、貴方の不細工な顔は一晚寝ても治らない」と反撃している。

ロシアのプーチン大統領の側近議員であるミスリナ女史は昨年、「プーチン氏の精子をロシアの全女性に配りたい」と公言した。

とんでもない発言で、日本だったら間違いなく大騒ぎになる。

私は昨年、ロシアに出張した際、この発言についてロシアの国会議員に聞いてみた。すると「何が問題なのか」と述べ、全く聞き直っていた。

日本ではこれまで、多くの議員がちよっとしたヤジや発言でも厳しく批判されてき

た。他方、欧米では常軌を逸した発言をしても、ほとんど問題になっていない。明らかに日本と欧米では、こうした

「過激発言」の欧米、「偏見と誤解」の韓国
正しい情報伝える努力重要

側は基調報告で、述べていた。

「大阪の『わざびテロ事件』

発言に対する寛容度が異なるといえる。

いずれにしても、日本は問題に過ぎ、欧米は見逃し過ぎといえないか。

と、韓議員連盟総会が今月初めソウルで開かれ、私も出席した。

そこで韓国

は、嫌韓問題の代表例だ。韓国人観光客がよく利用する大阪の南海電鉄では「本日は外国人が多く乗車し、ご不便をおかけします」とアナウンスしているが、これも嫌韓だ。全くの誤解である。韓国側は何でも嫌韓に結び付けるが、やや被害妄想といえないか。

私は韓国の国会議員に「事実誤認だ。韓国の女子プロゴルファーは日本で活躍しているが、誰もが惜しめない拍手を送っている」といったら、韓国の議員は信じられないという顔をしていた。

韓国側はヘイトスピーチや外国人参政権なども問題視していた。しかし、彼らの意見は、「偏見と誤解」に基づくところが大きい。われわれは韓国側に正しい情報を提供していく努力を惜しんではならないだろう。

(自民党広報本部長)